

令和5年度三重県立飯野高等学校全日制学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	地域から愛され信頼される学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分と他者の違いを認め、自分を大切に、他者を思いやることのできる生徒</li> <li>2 基礎基本の力を身に着け、信頼される社会人として地域に貢献できる生徒</li> <li>3 専門的な知識、技能の習得を通じて、自由で豊かな表現力、創造力を発揮できる生徒</li> </ol>
	ありたい 教職員像	<p>○生徒一人ひとりが自らの目標に向かって真剣に取り組むことができるよう、生徒のよき理解者となり、適切なサポートができる教職員</p> <p>○学習指導や生徒指導などの指導力向上をめざして、ともに学びあい学び続ける教職員</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】 専門的な知識・技能の向上、楽しく充実した高校生活</p> <p>【保護者】 卒業後に自立できる基礎力と専門性の涵養</p> <p>【地域】 デザインや英語力を活かした活動など、本校ならではの社会貢献</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 高校卒業後の進路実現</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受け入れ</p> <p>〈地域〉 確かな学力と日本語力の育成</p>	<p>〈保護者〉 本校の教育に対する理解と学校の活動に対する協力</p> <p>〈中学校〉 高校生活に適應できる生徒の育成</p> <p>〈地域〉 企業等の積極的受け入れ</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>飯野高校の現状から先生方の努力による成果が感じられる。特に他に例のないCLD生徒への各種の取組には、飯野高校の先生方だけでなく他の団体や組織と連携をして素晴らしい成果となっている。</p> <p>インターンシップ等は定着に時間がかかっても、生徒たちの将来の生活に繋がっていくので続けてほしい。</p> <p>飯野高校は、地域の財産であり資源である。地域にはたくさんの企業などもあるが、地域の10年後20年後の発展には、飯野高校や若者が不可欠である。今の取組を継続して地域の未来を支えてほしい。</p> <p>応用デザイン科の生徒たちは自分の考えやイメージを絵やデザイン、ファッション、造形などのいろいろな形で表現をしてくれている。その表現を事あるごとに展示して披露いただく取組は素晴らしい。また、英語コミュニケーション科の発表会においても堂々と発表し、生徒たちの思いが伝わり感動した。両科とも生徒たちの成長が見て取れ、制作に費やした時間や思いも伝わります。</p> <p>先生方の丁寧で適切な指導で、未成熟な中学生が立派な高校生になり、各自の進路に進んでいる。ぜひ、中学生に飯野高生の体験を聞かせ、中学生の気づきと高校生の自己肯定感の醸成に繋がりたい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>専門性の高い特色ある教育を通じて、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚い。また、CLD生徒への理解が進んでおり、日本語教育を始めとして組織的な支援ができています。一方、基礎学力や基本的生活習慣、また進路意識が十分でない生徒への支援が課題となっている。</p> <p>さらに本校ならではの専門教育を充実させるとともに、学習指導と進路指導を効果的に結び付け、主体的な学びの充実に向けた体制づくりが必要である。</p>

学校運営等	<p>教員数に限りがあるなか、令和4年度から学年担当を各学年1名増員し、学年主任1名と担任4名の計5名体制とした。このため、学年全体がまとまって動きやすくなるとともに、学年独自の取組を学年主任がリーダーシップを発揮して進めることができるようになった。こうしたなか、教職員に過度な負担を強いることなく効果的に業務を進めるため、さらに分掌間の連携を強めるとともに、生徒の実態と合わない業務の廃止や簡素化、保護者等の学校への協力が欠かせない。また、教職員一人ひとりの指導力向上による学校全体の力の底上げが期待される。</p>
-------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人ひとりの進路実現をめざし、基礎・基本の定着を図る</li> <li>2 人とのつながりを大切にし、コミュニケーション能力の育成をめざした学習活動の推進</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>①基本的な生活習慣やマナーの定着</li> <li>②基礎学力の確実な定着</li> <li>③3年間を見通した系統的キャリア教育の推進</li> <li>④ICT教育の推進</li> <li>⑤CLD生徒支援教育の充実及び日本語教育の推進</li> <li>⑥多文化共生教育の充実及び命を大切にする教育の推進</li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>①校内各部の連携による生徒支援の充実</li> <li>②教職員の指導力向上に向けた研修の推進</li> <li>③応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流推進</li> <li>④教職員のコンプライアンス意識の向上</li> <li>⑤保護者及び地域との連携協力の推進</li> <li>⑥総勤務時間の縮減及び職場の環境の充実</li> </ol>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の推進	<p>(1) 進路意識向上のための取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①進路ガイダンスと事前事後指導による充実 【活動指標】ガイダンス機会、年間6回以上(各学年2回) 【成果指標】事後アンケートにおける意識向上70%以上</li> <li>②2年生時におけるインターンシップへの取組 【活動指標】地元事業所等でのインターンシップ 【成果指標】就職希望者数50%以上の参加</li> </ol> <p>(2) 進路希望実現のための取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自己開拓就職希望者への面談実施 【活動指標】我究と併せた適宜の面談(6・9・10月) 【成果指標】自己開拓から学校斡旋への変更率10%以上</li> <li>②校外模試と校内課外活動による実践力の向上 【活動指標】基礎力診断テスト及び大学・短大模試の積極的な受験 「我究」の年間20回以上の開講 【成果指標】進学希望者の進路決定率85%以上 学校斡旋の1次試験による合格率80%以上</li> </ol>	<p>(1)</p> <p>①1年3回・2年2回・3年3回:8回実施 非常に満足できた・満足できた:74%</p> <p>②就職希望者22人中9名が参加(45%)</p> <p>(2)</p> <p>① 学年主任により実施 自己開拓10名中2名が学校斡旋に変更(20%)</p> <p>② ・基礎力診断1年生で実施(年3回) ・「模試」年間 1年1回(24人) 2年2回(延べ39人) 3年6回(延べ69人) ・「我究」23回実施</p>	◎

		<p>・進学:96 名のうち 83 名が第一志望校(決定率 86%)</p> <p>・就職:18 名中 17 名(合格率 94%)</p>	
CLD 生徒支援教育の充実	<p>(1) 日本語能力による習熟度編成や支援員サポート 【活動指標】TTBJ による習熟度別クラス編成 一般授業への日本語支援員のサポート 【成果指標】TTBJ の複数回数実施による点数の向上</p> <p>(2) 日本語能力の向上 【活動指標】日本語能力試験の受験促進 【成果指標】第 1 言語が日本語ではない生徒の N 3 以上の合格率 60%</p> <p>(3) 奨学金の申込など経済的に困難な生徒・家庭への支援 【活動指標】予約奨学金の手続きが滞りなく実施できる。 【成果指標】説明会、申請手続き指導を年間 5 回以上</p>	<p>(1) TTBJ 3 回実施 平均 68.9→74.8</p> <p>(2) 受験者数(合格数) N3:15(12)80% N2:35(11)31% N1:44(11)25%</p> <p>(3) 7 回実施。別途個別での申請手続き指導を数回実施</p> <p>(4) その他 CLD 生徒対象インターシップの実施 30 人参加(8 社)</p>	
生徒指導の充実	<p>(1) いじめの早期発見と対応 【活動指標】学期に 1 回の面談と、事前アンケートの実施</p> <p>(2) 身だしなみの指導と、規則正しい学校生活の確立 【活動指標】服装髪指導を年間 6 回以上 【成果指標】イエローカード発行枚数 700 枚以下(令和 4 年度 727 枚)</p>	<p>(1) 実施済(各学期生徒全員面談実施)</p> <p>(2) イエローカード 900 枚(チェック項目強化及び教員の丁寧な指導による増加)</p>	※
人権、多文化共生、命の大切さについての学びの充実	<p>(1) 人権についての理解と知識を深め、互いを尊重する意欲と態度を育むための人権学習の実施 【活動指標】年間 5 回以上</p> <p>(2) 人権学習や人権に関する取組等の発信 【活動指標】「人権だより」の発行を年間 3 回以上</p> <p>(3) 教員の人権に関する研修等の実施 【活動指標】教職員研修またはフィールドワークを年間 1 回以上 教職員向け「人権だより」の発行を年間 3 回以上 【成果指標】人権に対する意識や理解の深まりを感じた教職員数 70%以上</p>	<p>(1) 各学年での学習、PTA 共催講演会、生徒有志による人権発表等 実施</p> <p>(2) 年間 3 回発行</p> <p>(3) 研修会 8 月実施 ・生徒向けを共用 ・90%以上に意識変化有(アンケート実施による)</p>	◎
基礎学力の向上及び健康意識の確立	<p>(1) 基礎学力の向上 【活動指標】補習や各教科の宿題等を定期的実施 基礎学力向上(国語・数学・英語)の取組 【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力、学習習慣が身についたと感じた生徒の割合 70%以上</li> <li>・基礎力診断テストの成績変化 <ul style="list-style-type: none"> <li>① D3 人数 国語・数学・英語とも 20 人減</li> <li>② GTZ 上昇者 国語・数学・英語とも 80 人以上</li> </ul> </li> </ul>	<p>(1) 学習会 計 10 回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎学力、学習習慣が身についたと感じた生徒の割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力 78.5%</li> <li>・学習習慣 63.7%</li> </ul> </li> <li>●成績変化 <ul style="list-style-type: none"> <li>① D3 人数</li> <li>【国語】14 人減</li> </ul> </li> </ul>	

	<p>(2) 健康の自己管理の確立</p> <p>【活動指標】 日常からの体調管理と適切な栄養摂取</p> <p>【成果指標】 毎朝の体調報告及び朝食をとる生徒の割合 70%以上</p>	<p>【数学】 7人減</p> <p>【英語】 2人減</p> <p>②GTZ 上昇者</p> <p>【国語】 118人上昇</p> <p>【数学】 118人上昇</p> <p>【英語】 143人上昇</p> <p>【健康管理実施率】</p> <p>1年：79.5%</p> <p>2年：74.5%</p> <p>3年：69.6%</p>	
--	---	---	--

#### 改善課題

- ・進路ガイダンスは、各学年とも適当な時期に生徒へのアプローチができています。ただ、就職希望者へのインターンシップにおいてはコロナ禍の影響もあり積極性に欠けているところがあるので、学年と進路指導部が連携を強めて活性化していきたい。特にCLD生徒のインターンシップについては、校外組織のサポートを受けてより充実させたい。
- ・CLD 生徒の雇用状況については依然として課題も残るが、今年度は進路指導部と学年の指導の結果、非正規雇用希望者が学校斡旋による正規雇用への移動がみられた。
- ・生徒の特性を生かした進路希望に対する専門指導は充実している。それらの成果をより高めるために、課外授業などを充実させると共に、早期から取り組めるように段階的な学力指導を行いたい。
- ・日本語指導を充実させることは本校にとって重要なことであり、生徒の意識と能力を高めるための取り組みを充実させたい。その対策として、各種テストや日本語能力検定などを更に積極的に導入していきたい。
- ・生徒一人ひとりに面談を行うなど丁寧な指導がなされているが、方向性を定めた組織的な指導も進めたい。
- ・人権教育については、本校生徒の多様性に応じた内容に取り組むことで、主体的で幅広い指導を行いたい。
- ・基礎学力の定着に向けた取組については、進路指導部の具体的な進路指導と並行しながら、学年による学習習慣の定着指導を行うことで進めていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せているようであるが、その他感染症と相まって集団感染がおこることも少なくない。引き続き、平素の感染予防には意識を高めたい。

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業改善を図るための教職員の指導力向上	<p>(1) 教員が相互に授業を見学し、気づいた点を交流する。また、生徒や保護者、中学校教員等からのアンケートによる意見を共有する。以上により、授業力向上を図る。</p> <p>【活動指標】 授業見学または授業公開を年間2回以上学期末の生徒アンケート、授業公開時のアンケート実施</p> <p>(2) 授業改善やICTに係る教職員研修会の実施</p> <p>【活動指標】 研修会を年間1回以上</p> <p>(3) ICTを活用した授業の推進</p>	<p>(1)</p> <p>●授業公開</p> <p>6月・11月 2回実施</p> <p>・専門的な学習環境が整っているとの意見</p> <p>●生徒アンケート</p> <p>12月実施</p> <p>・生徒は概ね授業を理解している</p> <p>・家庭での学習時間が少ない</p> <p>・課題の未提出や提出遅れ(30%程度)が目立つ。</p> <p>(2)</p> <p>●ICT研修会2回実施</p> <p>8月：BYOD 授業実践・活用研修</p> <p>12月：Teams 操作・活用研修</p> <p>(3)</p>	

	<p>【活動指標】ICTを活用して授業実践した教員の割合 80%以上</p>	<p>●ICT活用授業の実践 教員の割合…93.8%</p>	
<p>応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流</p>	<p>(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流授業、学校行事、卒業制作展、英語表現演習発表会等で交流をする。 【活動指標】交流会を年間5回以上</p>	<p>リトルワールド(2h)、学科紹介(4h)、体育祭、文化祭、修学旅行、卒業制作展見学、英語表現演習発表会鑑賞 計7回</p>	
<p>地域への貢献活動と情報発信</p>	<p>(1) 鈴鹿ロータリークラブとの交流、連携 【活動指標】地域の清掃など貢献活動の実施 【成果指標】生徒が参加する行事を年間1回以上</p> <p>(2) 積極的な中学校への学校紹介 【活動指標】各中学校や市教委が開催する進路説明会へ教員だけでなく生徒とともに参加する。 【成果指標】志願者数が前年度以上</p> <p>(3) 主体的な異校種連携 【活動指標】地域の小学校へ訪問して出前授業の実践 【成果指標】受入校児童および本校参加生徒のアンケート満足度75%以上</p>	<p>(1) ①6月16日学校環境デーに生徒147名が参加 ②12月6日RD例会にて生徒英語スピーチ発表 (2) 従来の説明会だけでなく中学生への個別対応(7人) 【前期志願者昨年比】 応テ91人(-7) 英コミ84人(+14) (3) ・牧田小学校:4回 ・加佐登小学校:1回 ・小学生宿題ボランティア:長期休業中2回 【アンケート満足度】100% (4)その他 鈴鹿市国際交流協会主催「わいわい春まつり」実行委員として生徒7名参加</p>	
<p>教職員や生徒、保護者への情報提供、情報発信</p>	<p>(1) 生徒、保護者の学校に対するニーズや信頼度等を把握するためのアンケートの実施 【活動指標】アンケートを年間1回(12月実施) 【成果指標】保護者の学校に対する信頼度80%以上 (2) 生徒、保護者への情報提供(マチコミメール・クラスルーム) 【活動指標】マチコミメール等を年間40件以上 (3) HP、たより等による情報発信 【活動指標】①HPの到着情報を年間30件以上 ②「保健だより」を年間5回以上配付 ③「図書だより」を年間8回以上配付</p>	<p>(1) ・アンケート実施済 ・保護者信頼度94% (2) マチコミ・クラスルーム指標以上(マチコミからクラスルーム連絡へ多数移行) (3) ①42件 ②6回 ③毎月発行</p>	
<p>職員の総勤務時間の短縮及び職場環境の整備</p>	<p>(1) 総勤務時間の短縮 【活動指標】①設定した日(年間12日)の定時に退校できた職員の割合70%以上 ②予定通り休養日(週1回以上)を実施できた部活動の割合100% ③放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合70%以上 ④年間の学校閉校日を4日 【成果指標】①時間外労働時間の10%削減 (R4:19.9→17.9時間/月)</p>	<p>(1) ①定時退校76% ②部活動100% ③会議69% ④夏季冬季 計4日間  ①20.9→20.9=±0 ②20.1→21.2=+1.1</p>	

	<p>②休暇取得日数の1日以上の増加 (R4: 19.5 → 21.0日/年)</p> <p>③月80h超の時間外労働者延べ人数0人 ④月45h超の時間外労働者延べ人数0人 ⑤年360hを超える時間外労働者数0人</p> <p>(2) 安心・安全な職場環境づくり 【活動指標】「信頼される学校であるための行動計画」の周知および実施</p>	<p>③10人→1人 ④52人→36人 ⑤10人→7人</p> <p>(2) 学校信頼向上委員会からの年間計画の実施によって周知</p>	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開等をはじめ教員の意見交流を行い改善に努めているが、アンケートから見えてくる課題もあり生徒へのアプローチに工夫したい。</li> <li>・ICT導入には、研修会を行うなど積極的で、授業での活用も前向きに進められている。生徒の端末使用による授業実践に更に取り組むたい。</li> <li>・特色のある両科の特性を育みながら交流ができています。今後は入学から卒業まで継続的な一貫性のある交流を構築したい。</li> <li>・地域に対して開かれた学校となるため、地域のイベントや小学校との交流に積極的に取り組んでいる。今後は活動をさらに拡大継続して地域に対して周知していきたい。</li> <li>・保護者アンケートにより課題改善に努めたい。また、情報提供として従来のメール配信だけでなく生徒端末の普及に伴いクラスルームなどのツールも利用したい。</li> <li>・職員の勤務時間の短縮に向け、現行の勤務状況から校務分掌の人数配当や業務分担を見直し、職員一人一人の負担を適正にしていこう。</li> </ul>			

## 5 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度は、コロナ禍もあけて学校行事にたくさん参加ができ、生徒や学校の様子を知ることができて良かった。子ども達は、のびのびと自由さを楽しんでいる姿を見て、とても良く感じた。</li> <li>○岐阜駅の周辺の地下に、高校の紹介ブースがあり、大変興味が沸いた。飯野高校も特色があり、たくさんの取り組みをしているので、ショッピングモール等に常時紹介できるような場所があればよい。</li> <li>○評価委員になってから、飯野高校へのイメージがとても良くなった。鈴鹿市、三重県の財産とだと感じている。学校の取組や生徒の活動などを情報発信して地域での認識を高めたい。積極的な学校の取組みは、生徒の人生を変えるような成長に繋がり、地域と学校、生徒で好循環をつくりたい。</li> <li>○多数の組織や団体が、飯野高校に視察に来ている。将来日本が目指していかなければならない多文化共生を先取りして実践しているから注目をされているからだと思う。今後も受入れは大変だが、未来のために継続してほしい。</li> <li>○CLD生徒の就職状況については、以前から非正規雇用が少なくない問題点がある。今年度は、学校の取組のなかで学校斡旋による正規雇者が若干数増えた。</li> <li>○経済的な理由で進路実現ができない生徒もいるようなので、奨学金などの説明や指導を、より充実させてほしい。また、学びを深める経験として海外留学があるが、経済や為替の現状から金銭的な課題が問題となっている。</li> <li>○今までのように「右へ倣え」でみんなが同じではなく、これからはそれぞれの個性が大切になると感じている。飯野高校での学びは、個性を伸ばす指導をしており、これからも充実させてほしい。</li> <li>○学校行事に参加する度に、生徒たちの努力と先生方の苦勞が伝わる。作品をつくる人だけでなく周りの人たちの協力もあり、いつも元気をもたらしている。</li> <li>○卒業が近づき寂しく感じる。役員としての活動も楽しく、子どもも飯野高校に入学したことを満足しており、親としても嬉しい。</li> </ul>
---

## 6 次年度に向けた改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望を実現するため2年生からインターンシップや大学見学等に積極的に参加させ、意識づけを行う。</li> <li>・CLD 生徒のサポートの充実に向け、国際サポート委員会を中心に組織的な取組を進めるとともに、定時制との間で情報交換や協議の場を設ける。</li> <li>・学年の横のつながりと縦のつながりを深め、3年間の系統的な取組を進める。</li> <li>・本校の魅力を積極的に発信し、中学生・保護者・地域に選ばれる学校づくりを進める。</li> <li>・これから迎える生徒数の減少を見据え、プロジェクト会議等を活用して本校のあるべき姿を共有し、必要な改善に努める。</li> </ul>
--